

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

よこはま地域福祉研究センター

② 施設・事業所情報

名称：上末吉白百合保育園	種別：児童分野 認可保育所	
代表者氏名：園長 原田智美	定員（利用人数）： 60 名	
所在地：〒230-0011 横浜市鶴見区上末吉3-5-2		
TEL：045-581-7451.	ホームページ：https://shirayuri-kamisyueyoshi.com/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日： 2001年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）： 社会福祉法人 白百合会		
職員数	常勤職員： 17 名 非常勤職員 15 名	
専門職員	保育士 23 名 事務員 1 名	
	栄養士 2 名	
	調理員 2 名	
施設・設備の概要	（居室数）	（設備等）
	保育室 8室	遊戯室 調理室 調乳室 事務室 地域支援室等

③ 理念・基本方針

<保育の基本理念>

- ・子どもの最善の利益を求める「子どもの権利条約」を遵守し、児童憲章、児童福祉法を守り発展させていきます。
- ・保育を必要とする乳児・幼児を養護・教育し、すべての子どもの発達を保障していきます。
- ・地域社会で子どもの育ちを最優先する立場から、施設開放、子育て中の育児不安等の相談など保育所を地域社会の有用な社会資源として活用を図ります。
- ・激しく変化する社会のなかで保育に対するニーズは、複雑化し更に多様化しつつあります。このニーズに応えていくことのできる広い社会的視野にたち、たえず保育内容の改善をすすめます。

<保育方針>

- ・子どもたちが、心身ともに健やかに成長・発達できる保育内容・良好な環境を保障します。
- ・保護者の方々も、安心して働き続けられることができる保育環境を整えます。
- ・保護者の方と手を取り合って子育てをし、その成長の喜びを共感できる関係を築いていきます。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

- ・当園は、広い園庭と2階にテラスがあり陽当たりも良く乳児、幼児ともによく遊んでいます。近くには鶴見川があり魚をみたり、土手沿いには桜が植えられ桜の満開に季節を感じながらの散歩や近隣の公園へと足をのばし四季を通じて探索を楽しんでいます。1日1日が「わくわくドキドキする保育を！」とさまざまな素材に触れ五感を使って全身を動かしてとことん遊びきります。「おもしろ～い!」「たのしい～!」

と、思える豊かな実体験を、そこで感じる心の育ちを温かく見守ることを大切にしています。又、食べることに興味、関心を持つように食育体験を豊かにし夏、冬野菜を育て収穫した野菜を子どもたちとどんな味つけて食べようかと話し合っ、食べています。

・子ども主体の生活、遊びの環境を見直すと共に安心安全の保育の中で、日本の文化の継承として季節の歌や絵本、行事を大切にしています。

・地域への取り組みとして、保育・看護実習生の受け入れ、中学校、高校の職業体験、ボランティアの受け入れ、職業講話・地域の地区センターに保育士を派遣しています。毎週水曜日の園庭開放の他、給食試食会やベビーマッサージ等の取り組みなど、日々の子育ての悩みなど相談出来る場としています。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年5月23日（契約日） ～ 2022年11月21日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2 回（2017年度）

#### ⑥総評

◇特長や今後期待される点

【特長】

**◆子どもたちの主体性を大切に、一人ひとりの子どもをていねいに見守る保育を実践しています。**

今年どんな1年を過ごしたいかを職員間で話し合い、「元気いっぱい！友だちだいすき！やりたいことがあふれる」ということばを考え、日々の保育実践に取り組んでいます。各保育室には、発達に沿った手作りの玩具がたくさんあり、子どもたちが自分で取り出せるようになっていきます。また素材やおりがみ等も自由に使えるよう用意されているので、やりたいときに自分で遊びを選べる環境があります。生活の中においても、子ども自身がどうしたいかという思いをくみ取り、主体性を尊重する保育の実践に取り組んでいます。

また、子ども達の家庭での状況を把握し、園での生活が園本位の動きにならないよう、一人ひとりの子どもの様子を見ながらその子に合った柔軟な保育を行っています。子どもの登園時間や生活リズム、体調などを考慮して、その日の活動のグループを分けたり、お昼ごはんを食べたりしています。

**◆地域のニーズを把握しながら地域社会における保育所の役割を果たす努力をしています。**

近隣の地区センターで、地域の乳幼児親子に対して保育の専門性を活かした子育て支援事業を実施しています。また、園主催の行事は、町内の自治会の掲示板でお知らせを発信し、園を利用していない親子の参加へつなげたり、近隣からの園への意見について自治会も共に検討したりと良好な関係を築いています。地域社会と積極的に関わる中で、情報を得たり、ニーズを把握し、活動に活かす努力をしています。また、地域の小学校との連携の他、中学校に職員を派遣して、保育所とはどういうところか、保育とはどんな仕事かということ話す機会を設けたり、中・高校生の職業体験を受け入れたりするなど、地域で将来の保育士の卵を育てるよう働きかけています。

【今後期待される点】

**◆より具体的な目標設定した事業計画の策定が期待されます**

現在、園では2022年度事業計画が策定され、その中身はクラス体制、職員数、行事といった現在の状況数値が記載されています。また、事業としては特別保育事業など、いくつかの事業があげられていますが、事業計画としてこれらをどのように展開

するのかまでは記載されていません。一方、運営方針には、取組の内容として今年度の事業の目標が書かれています。事業計画としては、これらを統合して、取組内容をより具体的な達成目標として設定して、1年間の取組としてどのように展開していくかを具体的な数値とともに整理していくことが望まれます。さらに、中長期計画が法人の計画として策定されていますが園の計画まで落とし込まれていません。今後は、園としての中長期目標を設定し、その下で年間事業計画が策定されることが期待されます。

**◆人材の確保や育成、働きやすい職場づくりについて共通理解を深めることが期待されます。**

園として「保育士人財育成計画」があり、保育士だけでなく、栄養士や事務員にもそれぞれ職位・職階別に期待する役割と資質・業務に必要な知識・技術が示されています。それに基づいて人材の確保や育成について計画が作成されています。個別面談も年3回行われ、職員の意向も反映されるよう努めていますが、具体的な人事管理の取り組みや働きやすい職場づくりについて、職員一人ひとりに十分伝わっていないことが職員アンケートであきらかになりました。今後は園として、人材の確保や育成、ワークライフバランスなどについて、園内で共通理解を深めていくことが望まれます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価の受審に際し、職員一人ひとりが、全項目にわたって点検し、気づきをグループ討議、保育園として一つにまとめていく作業を通じて、様々な角度からの視点を持つことができ改めて意識を広げることができました。

地域にある保育園が、地域社会に対して何が取り組めるのか。取り組みをしていく姿勢と関係づくりの大切さを感じました。まだまだ改善していく点など様々な見直しと気づきの場となりました。

保護者の皆さまからも忙しい中アンケートのご協力を頂きました。改めてお礼申し上げます。

これからも保育園の全職員が子どもを真ん中に切磋琢磨し、子どもにとって何が大切かを常に考え、発達にあった保育に向けて今後も職員の話し合いを促進しより良い職場、より良い運営に取り組んでいきたいと思っております。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり